

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

700回迎え記念礼拝 11:1
1922年から守り続け

戦時体制の紆余曲折を経て、1949年に再開したことになる。

東京YMCAの祈りを結

第700回早天祈禱会は、
11月1日午前7時より山手
センターで開かれる。多く
の方々の参加をお待ちし
ています。※詳細は4面イ
ンフォメーション欄。
(ミッシェン推進チーム
村杉克己)

幼児…子ども…青少年…高齢者



港区としても、全国的にも、そして東京YMC&Aとしても新しい試みとなる、複合的な子育て・異世代交流施設『港区立芝浦アイランドこども園・児童高齢者交流プラザ』の開設・運営から半年が経過した。

様々な子育てのニーズに
える場として設置された。
児童高齢者交流プラザ
は、学童クラブを含む「児
童館（大型児童センターと
して設置）」及び60歳以上
の高齢者が自由に利用でき
る「福祉会館」を一体的に

館長
鶴清忠

こども園は、認可保育園運営し、会館全体として豊
として、生後57日目から3
世代間の交流を促進するこ
歳までの保育と、4・5歳
を旨としている。

“手作り給食”好評

二ども園は、入園式（乳児4月1日、幼児・4月7日）に始まり、150人の園児を年末年始の4日間を除いて毎日受け入れている。

こども園の1日は、早朝7時15分から、8時半から9時過ぎまでには、ほぼ全

が主流だ。

来館者は毎月増加

「手作りの給食」は年齢に配慮した調理法を工夫しており、園児は毎日楽しみにしているようだ。午後2時には、4・5歳児の約4割（約30人）が降園し、他の園児は3時過ぎまで午睡を取る。午後の保育を6時15分まで行い、30〜40人が延長保育を利用して、10時まで保育が継続されている。

主な行事は、遠足やプール遊び、夕涼み会、保護者参観、運動会など、一般の保育園や幼稚園で行つものに参加されている。

は、9時半の開館と同時に乳幼児の親子が多数来館し、乳幼児専用ルームや工作室・体育室などを利用している。スタッフは子育ての相談などを通常の会話の中で受け止めている。

また高齢者向けに、午前中から卓球、ゲートボール、カラオケ、生け花、吹き矢、健康体操などを実施。特に毎月実施している「芝浦ウォーキング」は大好評で、30人余りの元気な高齢者が参加されている。

30人余りの元気な高齢者が参加されている。

実施日	プログラム	参加人数
4月1日	オープニングイベント	500人
5月5日	子どもの日イベント	250人
6月7日	児童と高齢者の交流会	200人
7月7日	七夕コンサート	100人
7月31日	バスハイキング	85人
8月8-9日	あきる野市キャンプ	17人
8月29日	打ち水イベント	270人
9月12日	敬老交流会	170人
合 計		1592人

交流プログラム「しおり作り」
子どもたちと高齢者が一緒になって。



YM·YW 合同祈禱会
11・15

『何よりも大切な子どもたち』

今年も11月の第3週に、世界中のYMCAとYWCAで、「世界YMCA/YWCA合同祈禱週」が持たれる。

ちの日常を振り返り、
たち自身のため、YM
Aのため、また私たち
仕えようとしている人
のために、キリスト

この祈禱週は、自分た
教えから導きと励まし
見出す時である。

何よりも大切な子どもたち

「何よりも大切な子どもたち」をテーマとした、大塚昌高氏の作品。中央には、太陽の顔が描かれ、その周囲には、様々な動物の顔が描かれています。作品の下部には、太陽の顔の横顔が描かれています。

大塚昌高 作品

今年は『何よりも大切な子どもたち』をテーマに、特に弱者である子どもに焦点を当て、共にえ祈る時を持つ。

グイベント（500人が参加）に始まり、「こどもの日イベント」「児童と高齢者の交流会」「七夕コンサート」「アンデルセン公園パ

地域と歩む施設に

老交流会」別表参照」などを実施した。学童クラブは、保護者懇談会＆ふれあいイベントを5月13日・7月1日・9月9日に行い、ゲーム大会や親子料理、流しぞうめんなどに、毎回50人以上の保護者の参加を得て、好評を博した。

この9月までの6ヶ月間

『芝浦アイランド児童
年齢交流プラザ』は、
歳から100歳までの出
い・交わり・支えあひ
目指し、地域に開かれた
設として、こども園で
設開放・園庭開放・行
の参加等を積極的に促
いる。

また地域での子育てを支援する働きとして、登録制（かかりつけ園）を2008年1月から開始する。児童高齢者交流プラザでは、地域で行われているお祭り等に積極的に出展し、地域との関係作りに努めている。11月に予定している「交流プラザまつり」には、地元の町会や自治会などにも参加を呼びかけ、地域と共に歩む施設としての在り方を具体化させている。運営初年度、確かな手ごたえを感じつつ、順調に折り返し地点を通過した。

り返し地点を通過した。

ス
◇東京YMC Aのプロ
グラムに、群馬・埼玉・
千葉・東京Yからメンバ
ーが集う「会員ソフトボ
ール大会」（於：大宮運
動公園）が試合に臨みます。毎
年優勝を目指し、真剣にそ
して楽しい時を過ごしたそ
れぞれの場に戻ってくださ
い。

たくさんさんの『未来』を思い、毎年感動を覚えます。こんな素晴らしい場が、もう25年も与えられています。

総主事室から

夢を見、未来想う

たからです。自分以外の
人の中に共通の部分を感じ
られることは、とても
重要に思いますし、その
共通性は目的を達成する
力となります。

動場）があります。始球
式後、高齢の会員、学生、
ボランティアリーダー、
スタッフ、幼稚園の保護
者など多岐にわたる人々
地よい疲労感の中、仲間
の存在を思いながら……。

◇私はたくさんさんの「夢
をその中に見ることができ
き、嬉しい限りでした。

現代にあって、私たち東京YMCAはいつでも、八間性回復の場を持ち、またその機会を増やすことを忘れてはならないと志つのです。(廣)

った。家に取りに戻った時間
がもったいない、お水で我
慢しよう！」と思ってくれ
るくらい、楽しい場所にせ
ねばと感じた瞬間である。
(芝浦アイランド児童高齡

赤 V 三角

赤▽三角

まなどの「昔遊び」のプログラムがきっかけで、普段は一人で携帯ゲーム機に熱中している子も夢中になってメンコ遊びをしている。

▼メンコは牛乳パックに自分で絵を描いて作る。大きな形も厚みも個性一杯。

勝負に負けるとそのメンコは相手のものになってしまふ場合もあり、100枚以上のメンコを持ち歩く子も出るほどだ。そんな中、メンコを全部とつた子が『50円

でメンコ売ってくれない
という話まで。当然ス
タッフが止めたのだが、安
易にお金で自分の欲求を叶
えようとする子どもたちの
気遣いぶつてくる。▼という

恩賞にひっくりかえり、
 と思えば、小学1年生がフ
 ロントにやってきて、『喉
 が渴いたので販売機でジュ
 ースを買いたいんだけど、
 お金を持ってないんでどう
 したらいいですか？』と真

剣な目つきで質問。一瞬あ
つけにとられたが、スタッ
フが『我慢するか、冷水機
のお水を飲むか、家に帰っ
てお金を持ってくるかにし

「たうろ？」と子どもの判断に興味を感じながら答える
と、『分かった。取りに行っ
て来ます』と走り去ってい
った。「家に取りに戻る時間
がもつたいない、お水で我

「慢しよう！」と思っ
てくれるくらい、楽しい場所
にせねばと感じた瞬間である。
(芝浦アイランド児童高
齢者交流プラザ 村上 剛)